

2021年度総務局報告書

総務グループ 総務局

専務理事 / 山田 真之介
総務局長 / 伊藤 卓泰
総務理事 / 鋤柄 智康
総務補佐 / 岩瀬 崇典
総務補佐 / 杉本 有史
会員交流理事 / 西 一博
会員交流補佐 / 田原 嵩大
会員交流補佐 / 大原 しおり
アドバイザー / 佐々木 大地



【担当事業】

鋤柄理事

- ・1月定時総会
- ・8月臨時総会
- ・12月臨時総会
- ・内製化 JC 手帳作成及び新入会員名簿の作成
- ・褒賞者、褒賞委員会、拡大貢献者の選定実施
- ・慶弔関係の対応

西理事

- ・6月例会(タージャンハオホッターラー)
- ・出向者報告会&ありがとうと言いたくて2021
- ・2021年度卒業式
- ・ながらパトロール
- ・各懇親会の設営

【実施効果及び成果】

鋤柄理事

・前年に続き、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令された年でもありました。その中で各総会においては、対面での総会実施は困難である状況があり、遠隔地のユーザー間でコミュニケーションを行うオンラインミーティングツールを使い、初の Web 総会を試みました。自宅からの参加も行えるということもあり、参加員数増加に繋がったと思います。

・内製化 JC 手帳作成では、外部委託を辞めた事で、管理しやすく、名簿の修正が容易となりま

した。修正が容易に行える事で、メールアドレスの誤字や脱字などの誤った表記の改善が図れていると思います。

西理事

・6月例会では台湾との姉妹締結のルーツを知り、姉妹締結の関係性に深く重要性を感じた。先輩から受け継いだ、この関係性を復習できる資料作りをすることにより後世に『締結のルーツという原点』を残すことができた。ZOOMでの設営になったが資料作りや台本読みもうまくいき、失敗なく目的は達成できた事業でした。

・今年【初】と言っても過言ではないマスク会食の出向者報告会。久々LOMメンバーと顔を合わせ、会員交流として大きく思い出になり、胸が熱くなりました。会員交流メンバーも涙を浮かべながら出向者報告会では出向先で感じたことや、思い出を聞けました。ありがとうございますを言いたくて2021年ありがとうだけでなく、ごめんなさいも飛び交いました。しかし1年間メンバー同士が切磋琢磨し研鑽された1年の様子、各理事が担当委員メンバーなどの思い出や労いを語り対面という状況もあい見えそれも胸が熱くなりました。LOMメンバーの団結がより固まったことが成果だと思います。

・卒業式では卒業生を労い大変思い出に残る式になりました。卒業生にゆかりのあるOBが来ていただけたこと、サプライズの相談に行った時に出席のお願いができたことが卒業式に良い効果をもたらした先輩との架け橋になりました。願いではありますがLOMメンバーが先輩方と仲良くなれるのは会員交流が一番適していると思うのでLOMメンバーには1回は会員交流委員経験をおすすめします。卒業生を綺麗に送り出したい気持ちが形と出せたことを成果とします。

【反省並びに今後の課題】

鋤柄理事

・Web 総会の実施は、オンラインミーティングツールの知識を要します。そのため緊急事態宣言下などで利用する場合、豊川青年会議所として、何のオンラインミーティングツールを利用するかを統一し、そのマニュアルを整備していく必要があると感じました。また、総会は重要であると更に認識してもらい参加員数の増加を図らなくてはならないと感じました。

・通夜、葬式などの故人に関わる対応に関しては、二親等までなのか三親等までなのかを明確化し総務局メンバーが知っておく必要があると思いました。

・ZOOMでの開催は設営場所でリハーサルを行い、例会や総会など数多くパソコンを使用する場合を想定し、設営場所のメンバー配置をしっかりと決める(ハウリング問題が多くありました)

・卒業生とのコミュニケーション、2021年はギリギリになるまで総会&卒業式が開催できるか決定しておりませんでした。早めに卒業生に連絡し、ZOOM設営なのか対面なのかどちらの設営になっても対応できるように9月までに催し物の依頼をかけるべきだと認識しました。

西理事

・卒業式の現役メンバーによるサプライズで、OBにお願いをする時に失言し多くの方にご迷惑おかけしました。OBとの連絡を取る際には専務理事&理事長の耳に届くように報連相をしっかりと行い前もって連絡方法など相談するべきと感じました。

・卒業生の花の片づけの件(12月臨時総会)成功した点は午前から用意しておいた20箱の大きめな段ボール箱を作って卒業式中に花の詰め込み作業をしたこと。例年会場に翌日かなり花が残るので今年は少なくてよかったです。反省は前もって花の積み込み作業を頼んでおくのを各理事に任せてしまったこと。LOM メンバーひとりひとり電話をかけお願いしておいたら、総会中のごんごんと返りや卒業式の設営もスムーズに行えていたと思います。

【総務局長所見】

1月総会から始まり手帳の作成・修正、6月例会、8月臨時総会、12月臨時総会と1年中ほとんど総務局の議案が上がらない理事会がないほどでした。そんな中で2人共、本当に大変で辛かったと思います。私も会務理事しか経験したことがなくうまく2人を導く事が出来なくて申し訳ありませんでした。でもそれぞれが個性を生かし、人脈を生かして担当事業をこなしてくれました。失敗も幾つかありましたがそれよりも終わった後の達成感を得たことが何よりだったと思います。

2人を見て学ぶ事も多く、人間性、考え方、捉え方を教えてもらいました。2人が理事を受けてくれた事、やり切ってくれたこと本当に感謝の言葉しかありません。また山田専務にはたくさんの助言と配慮を頂き、頼りない私に最後まで付き合ってくれて頂きありがとうございました。山田専務、鋤柄理事、西理事、本当に1年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

【専務理事所見】

本年度は、例年繰り返し行われている事業の意義を考えるために、原点に立ち戻りメンバーの意識改革をテーマに活動してまいりました。直接的なメンバーの意識改革には繋げることはとても難しかった点がありますが、青年会議所の3信条である世界的友情を体現する「タートンJCとの姉妹締結」に関しては、しっかりと後世へ残せるものができました。またJC手帳を自分たちで作成するなど今後の青年会議所の礎を築けたと感じております。コロナ渦もあり最初は思うようにチームワークを築けず心配でしたが、事業を通してとても良いチームワークが築けました。1年間本当にご苦労様でした。